

### (3) 地域連携

#### めざす姿

《最終目標》 ～患者のあるべき姿～

がん患者が、自分の望む場所で納得のいく療養生活を送ることができる。

目標	評価指標		現状値 (基準値)	目標
	指標	出典		
住み慣れた場所で、療養生活を送ることができる	がん患者の在宅死亡割合	人口動態統計	17.5% (H27)	増加
居住する地域にかかわらず、質の高い医療を受けられる	在宅緩和ケアについて、希望し、実現可能	ならのがんに関する患者意識調査	40.2% (H29)	増加

《中間目標》 ～最終目標達成のために必要な体制整備～

最終目標を達成するため、診断、治療、在宅、看取りまで、切れ目のない医療提供体制の整備が進んでいる。

目標	評価指標		現状値 (基準値)	目標
	指標	出典		
がん診療連携拠点病院等とかかりつけ医・在宅医とのスムーズな医療連携ネットワーク体制が整備されている	病院から診療所・在宅医療（看護も含む）へ移った際、病院での情報（診療方針）が診療所、訪問看護ステーションに円滑に伝わった	ならのがんに関する患者意識調査	20.7% (H29)	増加
	地域連携クリティカルパス適用患者件数	奈良県調べ	137件 (H28)	増加
	在宅療養支援診療所数	厚生労働省近畿厚生局	151施設 (H29.10.1)	増加
緩和ケアに関してがん診療連携拠点病院等と地域で連携体制が整備されている	がん診療連携拠点病院における緩和ケアに関する地域多職種カンファレンスの開催回数	現況報告	16回 (H28)	増加
	地域の医療機関からの年間新規紹介患者数	現況報告	32人 (H28)	増加
がん患者が地域連携や在宅医療について、必要な情報提供を受けている	自宅での療養生活についての情報が不十分である	ならのがんに関する患者意識調査	39.9% (H29)	減少

#### 個別施策

～目標達成のために取り組むこと～

##### 1 拠点病院等の地域連携体制の充実

- ①地域連携クリティカルパスの活用の促進
- ②拠点病院等と病病連携・病診連携の促進

##### 2 在宅緩和ケア提供体制の整備及び充実

- ①在宅医療機能の把握・公表
- ②在宅緩和ケアに携わる人材育成

##### 3 がん患者や県民への情報提供と普及啓発

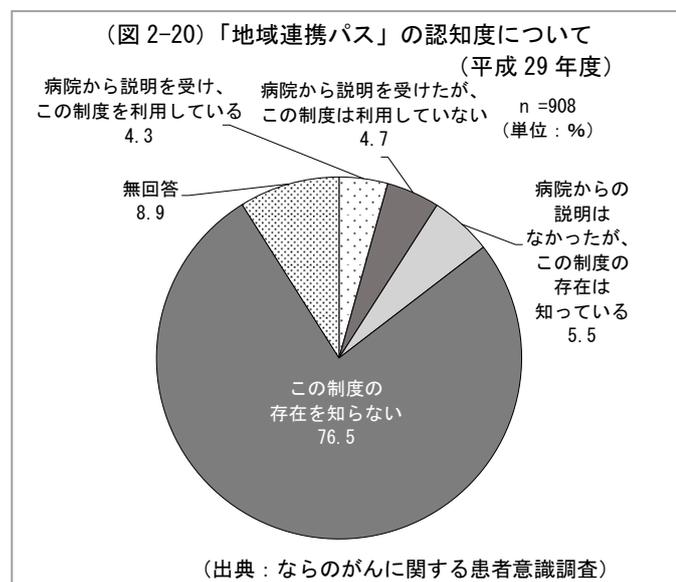
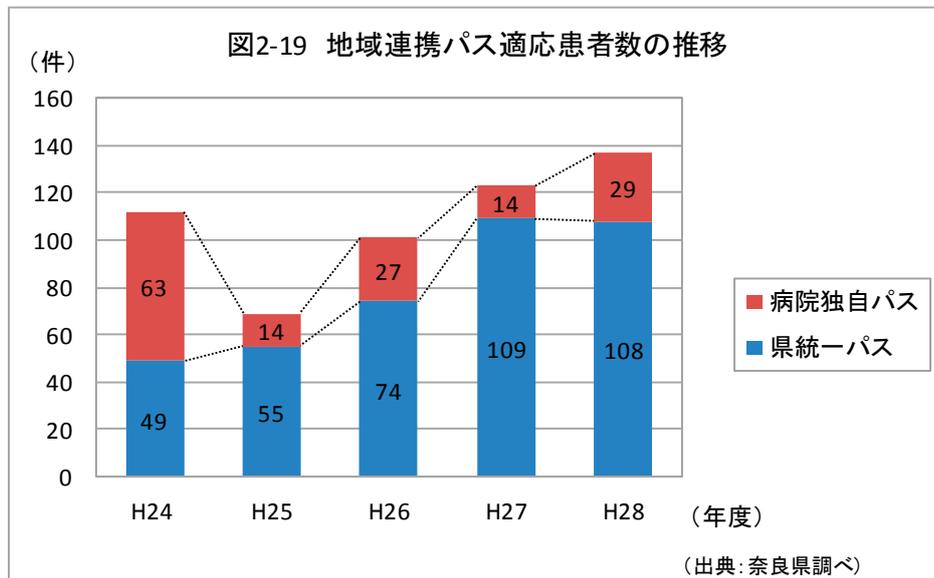
- ①在宅療養生活に役立つ情報内容の充実

## 現状と課題

### ◆地域連携体制について

#### <地域連携クリティカルパスの推進>

- 拠点病院等の医師と、地域のかかりつけ医師が、患者の治療経過を共有するためのツールである、地域連携クリティカルパス「私のカルテ」（以下、「地域連携パス」）を、5つの主ながんを中心に作成しました。
- 地域の診療所等を対象とした説明会や拠点病院担当者がコーディネーターとなるための研修会を実施するなど、地域連携パスの活用を進めましたが、件数（患者数）は増加しているものの、まだまだ少なく、地域連携パスの認知度はかなり低い状況です（図2-19、図2-20）。
- 地域連携パスは、県内の拠点病院等においてその活用状況には格差がありますが、国の状況も同様であり、国は地域連携パスのあり方の見直しについて検討することとしています。
- 今後は、地域連携パスの活用を含めた、病病連携、病診連携、さらに地域の多職種との連携の強化が必要です。

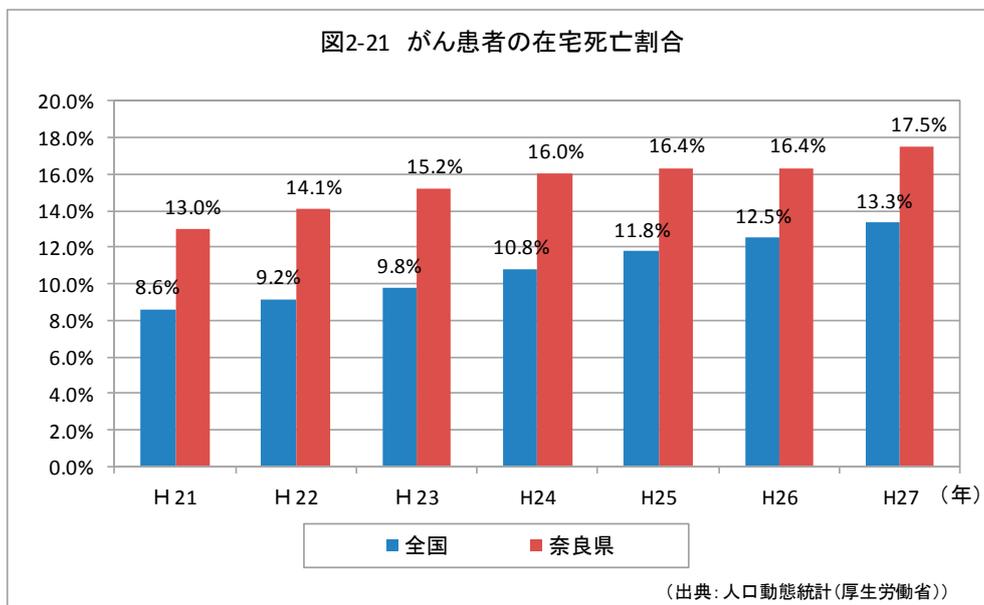


### ＜拠点病院等と病病連携・病診連携の促進＞

- 拠点病院等は、がん患者が病院から在宅に移行する際に切れ目なく診療を受けることができるよう、地域の診療所等との退院支援カンファレンスを実施するとともにかかりつけ医や訪問看護師などの多職種の医療従事者に向けた在宅緩和ケアに関する研修会等を実施しています。
- 拠点病院等と地域の病院やかかりつけ医が、相互の紹介、受け入れがスムーズに進むよう、必要な患者の診療情報等を共有するための「情報共有ツール」を作成し、利用を促進するため、「がんネットなら」に様式を掲載しています。
- 拠点病院等と地域の多職種とのスムーズな連携のためには、コーディネーター役が必要という声があり、今後検討が必要です。

### ＜在宅緩和ケア提供体制の整備＞

- 県のがん患者の在宅死亡の割合は、がん診療の在宅医の積極的な取組等により、全国と比較すると割合が多くなっています（図 2-21）。しかしながら、県内の在宅医、中でもがん診療の在宅医はまだまだ少ない状況のため、県は、県医師会と連携し、地域の診療所の医師等を対象とした在宅緩和ケアに関する研修会を実施しています。
- 山間地域であり、高齢者が多く、診療所が少ない南和地域においては、地域がん診療病院がへき地診療所と綿密な連携を取り地域のがん患者をサポートしています。また、一部地域には、がんを含む在宅患者への訪問診療を実施し、安心して地域で療養できる体制を整備しています。
- 今後は、地域にがん診療の在宅医を増やすとともに、地域のどこでどんながん診療が受けられるのかを把握し、県民にわかりやすく情報提供することが重要です。また、急変することが多く、在宅への移行のタイミングが難しいがん患者の退院支援も含め、地域包括ケアシステムや在宅医療全体の課題としての議論を進める必要があります。



### ◆県民への情報提供について

- がん情報ポータルサイト「がんネットなら」で、地域の診療所や訪問看護ステーション、薬局の情報等の在宅療養に役に立つ情報を提供しています。今後は、よりわかりやすい情報を関係団体等の協力を得ながら定期的に更新するとともに、「がんネットなら」の周知方法の工夫が必要です。

## 個別施策

### 1 拠点病院等の地域連携体制の充実

「地域連携クリティカルパスの活用促進」「拠点病院等と病病連携・病診連携の促進」の2つの視点で取組を進めます。

#### ① 地域連携クリティカルパスの活用促進

県は、5つの主ながんの地域連携パスの運用状況を把握し、活用状況が低い原因分析を行います。また、県拠点病院は、地域から病院へ切れ目なく緩和ケアが提供できることを目的に活用している「緩和ケアパス」を、他の拠点病院での活用を働きかけます。

なお、国の地域連携パスのあり方の検討を把握したうえで、今後の地域連携パスの活用の方向性を含めて、患者目線での地域連携のあり方を検討します。

#### [主な取組]

- ・地域連携クリティカルパスの活用状況の評価・分析
- ・拠点病院等での緩和ケアパスの推進
- ・国の地域連携クリティカルパスのあり方の検討を受け、県での地域連携のあり方を検討

#### ② 拠点病院等と病病連携・病診連携の促進

拠点病院等は、かかりつけ医や訪問看護師等多職種の医療従事者との退院支援カンファレンスの実施を推進します。また、地域における患者支援の充実を図るため、緩和ケアについて定期的に検討する場を設け、緊急時の受入れ体制、地域での困難事例への対応等について協議します。拠点病院等と地域のスムーズな連携のため、コーディネーターとなる人材養成の取組を検討します。

#### [主な取組]

- ・地域の多職種連携のカンファレンスの実施
- ・地域連携会議の実施
- ・国の地域緩和ケア連携調整員研修受講の検討

### 2 在宅緩和ケア提供体制の整備及び充実

「在宅医療機能の把握・公表」「在宅緩和ケアに携わる人材育成」の2つの視点で取組を進めます。

#### ① 在宅医療機能の把握・公表

拠点病院等は、患者が病院から在宅へ移行する際に、連携して迅速に対応できるよう、地域の診療所等の在宅医療機能を定期的に把握し、その情報をとりまとめ公表します。また、県は、「がんネットなら」等を通じて、地域のどこでどんな在宅医療が受けられるのかを県民に分かりやすく情報提供します。

[主な取組]

- ・拠点病院等が在宅緩和ケアに対応できる診療所等の在宅医療機能の把握・公表
- ・県内の病院等の在宅医療の取組の把握
- ・「がんネットなら」等での在宅医療機能の情報提供

## ② 在宅緩和ケアに携わる人材育成

県は、地域の受け皿となるがんの在宅医の充実をめざし、県医師会と連携し、地域の診療所の医師等を対象とした在宅緩和ケアに関する研修会を引き続き実施します。また、拠点病院等は、地域の医療・介護従事者を対象とした、がん性疼痛管理を中心とした緩和ケア研修を実施し、地域でも緩和ケアを提供できる人材育成を進めます。

[主な取組]

- ・地域のかかりつけ医等への緩和ケア研修会の実施
- ・地域の医療・介護従事者への緩和ケア研修の実施

## 3 がん患者や県民への情報提供と普及啓発

「在宅療養生活に役立つ情報内容の充実」の視点で取組を進めます。

### ① 在宅療養生活に役立つ情報内容の充実

県は、県の地域連携や在宅医療に関する情報や在宅療養生活に役立つ情報の内容の充実を図り、「がんネットなら」や広報誌等を通じて、県民への普及啓発を図ります。

[主な取組]

- ・「がんネットなら」や広報誌等での普及啓発

# 施策の目標、年次計画、実施主体

施策の柱	指標	現状値 (基準値)	目標値	主な取組	年次計画						関係機関									
					H30	H31	H32	H33	H34	H35	県	市町村	拠点 病院	医療 機関	その他	県民 患者 家族				
1 拠点病院等の 地域連携体制の 充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域連携バスの活用状況の把握・公表</li> <li>・緩和ケアバスを整備している拠点病院数</li> <li>・多職種カンファレンスの実施回数</li> </ul>	137件 (H28)  1施設 (H28)  16回 (H27・H1-H28/7・31)	増加	①地域連携クリティカルバスの活用促進	◎															
				・地域連携クリティカルバスの活用状況の評価・分析																
				②拠点病院等と病診連携・病診連携の推進																
2 在宅緩和ケア提 供体制の整備及び 充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・在宅医療機能の公表 〔がん患者対心可能な診療所、訪問看護ステーション、薬局等の施設数〕</li> <li>・在宅緩和ケア研修会の参加者数</li> <li>・医療・介護従事者への緩和ケア研修会の実施回数、参加者数</li> </ul>	実施済み (H28)  80人 (H28)  11回/449人 (H28)	増加	①在宅医療機能の把握・公表																
				・拠点病院等が在宅緩和ケアに対処できる診療所等の在宅医療機能の把握・公表																
				②在宅緩和ケア研修会の実施																
3 がん患者や県民 への情報提供と 普及啓発	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域連携バスの認知度</li> <li>・「がんネットなら」の認知度・アクセス数</li> </ul>	14.5% (H29)  11.3% (H29)	増加	①在宅療養生活に役立つ情報内容の充実																
				・「がんネットなら」や広報紙等での普及啓発																
				②在宅緩和ケアへの緩和ケア研修会の実施																